

長沼留萌市長あてに1通の手紙が届きました。差出人は、「ルルモツペ小学校児童一同より」と書いてあります。さて、その手紙にはどんなことが書いてあったのでしょうか……

子どもたちからの1通の手紙

ある日のこと。長沼市長はいつものようにいそがしく仕事をしておりました。すると、市役所職員の手紙が、「市長、ルルモツペ小学校の児童のみ

なさんから手紙が届いたのですが」と、長沼市長に手紙を手渡しました。

「どれどれ、どんなことが書いてあるのかな？」と楽しそうに封筒にはさみを入れ、手紙をとりだしました。



留萌市長様へ

こんにちは。私たちはルルモツペ小学校の児童です。私たちの学校では、社会科の時間に「留萌のまちづくり」をテーマに、自分たちがくらししているまちのことを勉強しています。その中で、「留萌港」、「フェリー」、「高速道路」という言葉がよく出てくるので、みんなで調べてみることにしました。そこで、全校児童から集めた「教えてほしいことを質問しますので、できるだけわかりやすく教えてください。よろしくお願いします。」

ルルモツペ小学校児童一同お



教えて！留萌港、フェリー、高速道路

長沼市長は、ニコニコしながらその手紙を読みました。そして手紙を読み終えると、市民の声を受け付ける仕事をしている犬養リーダーを呼んで手紙の内容を話しました。

犬養リーダーは、「港、フェリー、高速道路は、この手紙を送ってくれた子どもたちが大人になっても続いていく仕事ですから、子どもたちが興味をもってくれるのは、とてもうれしいことですね」と笑顔で言いました。

長沼市長は、「この手紙に書かれている質問は、留萌に住む人々にとって、とても大切なことです。この質問に、子どもたちにもわかりやすく答えたいことは、とても重要なことです。ぜひ、子どもたちの学習の参考になるよう、分かりやすい答えをまとめてください」と犬養リーダーに伝えました。

犬養リーダーは、「わかりました！がんばります」と、はりきって返事をしました。そして、早速答えをまとめる仕事にかかりました。

ルルモツペ小学校からの質問

みなとの巻

▼留萌港の管理を担当している市・港湾課の塚本さんに答えてもらいました。

Q.留萌港は、どうやってできたの？

昔、留萌には大きな船が着けるような立派な岸壁もなく、留萌川の河口に小さな漁船が着いているだけのひっそりとした漁港でした。

しかし、留萌市民の「留萌の発展のためには、大きな港をつくるしかない」という強い願いにより、明治42年に留萌港をつくる工事が始まりました。

そして、24年がたった昭和8年に留萌港が誕生しました。

留萌港は、これまでも、そしてこれからも、地域の発展や人々のいこいの場として少しずつ姿を変えながら成長を続けていきます。

Q.留萌港は、なぜ必要なの？

留萌はもちろん、旭川や滝川、深川から一番近い港は留萌港です。新鮮な農産品や魚介類などの貨物をより安く、より早く運ぶために、また、地域の経済を発展させるためには、留萌港は欠かせない港なのです。

Q.重要港湾って、なに？

国の利益や損害に重要な影響を与える港を「重要港湾」といいます。

昭和27年に留萌港は重要港湾に指定されています。

Q.留萌港は、今どのような整備をしているの？

大きな船で一度にたくさんの貨物を運ぶことができ、安く貨物を運ぶことができます。しかし、今の留萌港で一番大きな岸壁は、古丹浜地区のマイナス10メートル岸壁（水深10m）で15,000トンまでの船しか接岸できません。

そのため、三泊地区にマイナス12メートル岸壁（水深12m）を整備しています。



今年9月には豪華客船「飛鳥」が留萌港に寄港する予定です。

※今年度の「ポートウォッチング」開催日程は、今月号「インフォメーション」トピックスに掲載しています。

深12mを整備しています。これが完成すると30,000トンの大きな船が接岸できるようになります。

Q.留萌港のことをもっと知るには、どうすればいいの？

たくさんの方に留萌港を身近に感じてもらうため、『ポートウォッチング』や『ポートフェスタ』などのイベントを行っています。

昨年のポートウォッチングには、小学生568名が参加しました。今後たくさんの方に留萌港のことをもっと知ってもらいたいと思っています。

※今年度の「ポートウォッチング」開催日程は、今月号「インフォメーション」トピックスに掲載しています。

ちょっとマメ知識 -その1-

【マメ知識①】天然資源が乏しく、国土もさほど広くない日本にとって外国との貿易は必要不可欠です。その貿易貨物の99%以上は港湾で取扱われています。

飛行機などの交通機関が発達した現在でも、港は大変重要な役割を果たしており、留萌港においても、北海道第二の都市である旭川市を中心とする道北・道央地域の産業・経済発展を支えるための物流拠点港湾として重要な役割を担っています。

【マメ知識②】旭川空港に離発着するジェット機の燃料は、旭川から一番近い留萌港で全て荷揚げされています。

【マメ知識③】南岸地区のマイナス8m岸壁（水深8m）は石を積んで造られており、歴史的にも珍しく貴重な岸壁構造となっています。

【マメ知識④】北海道と本州間の貨物輸送は鉄道、飛行機、船により行われていますが、船は92%を占めます。船は一度にたくさんの貨物を運んで、料金が安いからです。



▲留萌港の未来予想図

シリーズ・今年のしごと

ひと・物・ゆめが、交流するまち……

大人から子どもたちへ



— ゆめをつなぐ港、フェリー、そして高速道路 —